

フェアプレイ  
インタビュー  
[レスリング]  
吉田沙保里選手



**プロフィール**  
生年月日：1982年10月5日  
出身地：三重県  
アテネ(2004年)、北京(08年)、  
ロンドン(12年)オリンピック55kg級  
★3大会連続の  
金メダル獲得

いろんなことを経験して  
目標や夢見つけて

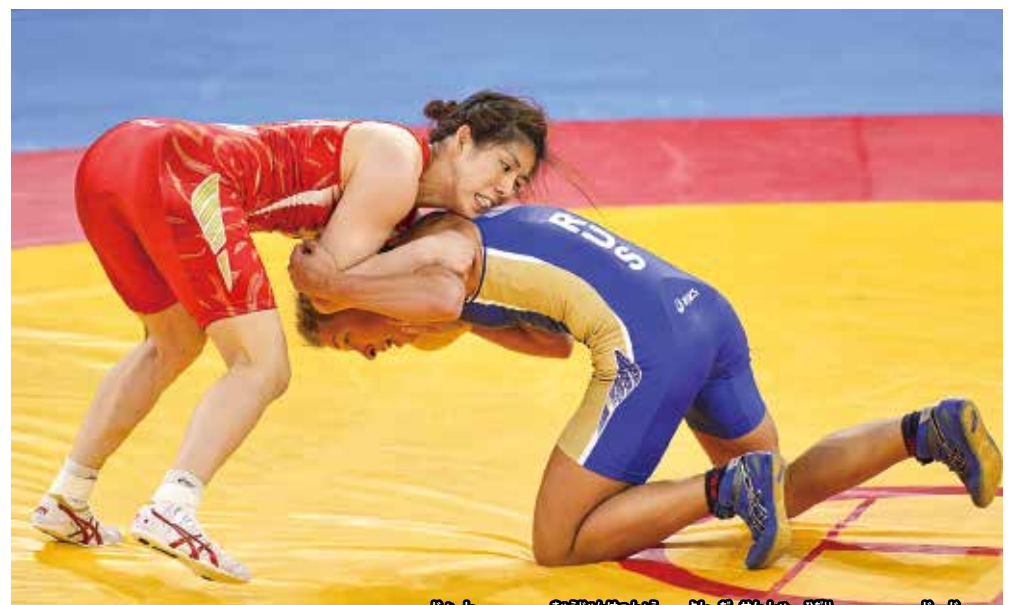
無敵の強さだった選手時代



女子レスリングで数々の偉業を達成し、国民栄誉賞も受賞した吉田沙保里さん。オリンピックでは3大会連続の金メダルに輝き、世界選手権でも13大会連続で優勝、個人戦206連勝など無敵の存在でした。

吉田さんは、「全力で戦うこと。それが一番」とフェアプレーに対する考えをはっきりと語りました。「マットに上がる前には相手の戦い方を頭の中でイメージすることもありますが、いったん試合に臨めば本能的に今までやってきたことを全部出すだけ」。フェアプレー7カ条のひとつ「全力をつくそう」をまさに実践していたことになりました。

レスリングの指導を受ける中で「とにかく攻め続ける」というプレー中の姿勢、競技外でも「人の目を見て話す」「あいさつをしっかり行う」といった日常生活での姿勢について教えられたとのこと。「何事も全力で行うことがフェアプレー」と語る吉田さんは、これらの教えにも全力で取り組んできました。「性格や普段の行いは競技に表れるので大事なことだと感じていた」と話す通り、こうして身につけた姿勢は強さの基となっています。



ロンドンオリンピックレスリング女子55kg級準決勝の吉田選手(左)(AFP時事)

失敗しても前向きに

吉田さんは小中学生のみならず、「目標を早く見つけ、夢をしっかり持つことが大事。その夢をあきらめずに頑張ってほしい」とアドバイス。それはスポーツだけに限らず、「外で遊ぶことを含め、いろんなことを経験して興味を持ち、楽しむことが、自分のやりたいことを探すことにつながる」と話しました。それが見つかったら、「失敗しても次につながる気持ちで続けていくことが大切」と言葉に力を入れました。

FAIRPLAY STORY  
フェアプレイ  
ストーリー

チーム結束には欠かせないコミュニケーション

元プロ野球選手  
上原浩治さん

今年5月、シーズン中に引退した上原さんは

日本とメジャーリーグ両方で活躍した元選手として知られている

この上原さんの活躍の裏にはある心がけがあった

元プロ野球選手 上原浩治さん

上原さんはプロに入ったときからずっと「チームメイトとのコミュニケーション」を大切にしていた

なせなら、そうすることで仲間を理解し、チームからも信頼を得られると思ったから

しかしメジャーに移籍した際は言葉の壁もありそれがうまくできなかった

上原さんはその悩みを乗り越えるためにハイタッチなどのボディランゲージを使ってチームメイトと積極的にコミュニケーションを取るよう心がけた

この心掛け、積極的なコミュニケーションによってチームのムードメーカーになるほどの信頼を得ていた

このままじゃダメだ…

チームの一員としてみんなともっと親交を深めたい!!

上原さんの心掛けによりチームは一丸となっていた

上原さんは一見当たり前に見えることを日々続けることで

日本画で活躍し続けることができたのだ

YAMAMOTO 56 TAGUCHI 28 McGEHEE 33 NAKAI 61